

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	70	学校名	茨城県立真壁高等学校						課程	全日制		学校長名	羽田 陽一			
教頭名	石塚 幸光								事務(室)長名	野村 一夫						
教職員数	教諭	31	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手	9	事務職員	4	技術職員等	7	計	66
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	農業科				13	5	16	3			29	8	2			
	環境緑地科				6	0	7	2			13	2	2			
	農業・環境緑地科		31	4							31	4	1			
	食品化学科		22	11	19	16	15	13			56	40	3			
普通科		8	5	4	4	7	7			19	16	3				

2 目指す学校像

文武両道の校風の下、全ての教育活動をとおして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立や規範意識について、課題のある生徒が減少しているものの、一部に見られる。その結果、トラブルや問題行動につながっている状況が見られる。	好ましい人間関係の構築や基本的生活習慣の確立を、教育活動全般をとおして、どのように意識付けしていくか。また、規範意識の醸成をどう図っていくか。
学習指導	基礎的な学力が身につけていない生徒がおり、学力差が大きくなっている。そのため、授業の理解度も異なり、授業に取り組む意欲や態度に差が見られる。	生徒の興味・関心をひき、わかりやすい授業を目指し、TTによる指導、習熟度別の学習やICTを活用した授業を展開しているが、それを基礎学力の定着にどう結びつけていくか。
進路指導	自らの将来の人生設計や進路に対する意識に課題がある。そのため、進路希望の実現が未達成の生徒が一部に見られる。	3年間を見通した進路指導の充実を図り、進路を主体的に選択する能力や態度をどう育成するか。
特別活動	学校行事にはよく参加しているが、部活動や生徒会活動、ホームルーム活動が活発ではない。このため、リーダーシップを発揮する生徒や場面が少ない。キャリアパスポートは円滑に導入できた。	部活動の加入率や参加率を向上させ、リーダーシップを発揮する場面をどう設定するか。また、自ら考え主体的に行動する能力を育成するための学校行事や生徒会活動のあり方を検討する必要がある。
働き方改革	昨年度のストレスチェック集団分析において、仕事の量的負担が全国平均値より、0.4ポイント高い値であった。月1日の完全消灯日とMY完全消灯日を設定し、業務の精選と平準化に取り組んでいる。	各校務分掌の主任や運動部顧問の仕事の量的負担が高いと考えられるので、一層の業務の精選とチーム体制の強化、ICT導入等により、平準化を図る必要がある。

4 中期的目標

- 1 生徒に寄り添い、向き合う姿勢を基本として、基本的な生活習慣はもとより、集団生活におけるルールやマナーの遵守等に関する自覚を高め、規律ある学校生活を送れるよう日々の指導の徹底を図り、問題行動・いじめの未然防止に努める。
- 2 生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成するとともに、生徒が興味・関心を持ち、わかりやすく参加意欲を引き出す授業の在り方を常に求めて指導方法等の改善に努め、基礎学力の定着を図る。
- 3 3年間を見通した系統的なキャリア教育を進めるとともに、地域等と連携した取組の充実を図ることで、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する。
- 4 学校生活、学校行事、生徒会活動及び部活動等を見直し、精選・再構築するとともに、意味のある特別活動において、生徒が主体的に取り組み、達成感や自己有用感が得られるような経験をさせたい。
- 5 地元に根ざした学校づくりを推進するために、PTA、同窓会及び地域と連携して学校支援体制を整え、ホームページを活用して本校の教育活動を積極的にPRする。
- 6 業務の精選やチーム体制の強化、業務の平準化を積極的に図り、生徒に寄り添い、向き合う時間を増やすとともに、教員のスキルアップの場を確保する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの励行 ・基本的な生活習慣と授業規律の確立 ・安全な学校づくりの推進 	<ol style="list-style-type: none"> ① 登下校時、授業・実習、部活動等を通して、場に合ったあいさつの励行を促す。 ② 生徒のよい面を認めて伸ばす指導を基本とする一方、毅然とした粘り強い指導を徹底し、基本的な生活習慣と授業規律を確立する。 ③ 観察、面談等を通して生徒理解に努めるとともに、家庭や関係機関等と連携していじめのない安全な学校づくりを推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合った授業の工夫 ・基礎学力の定着 ・自学自習の態度の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ④ 習熟度別指導や少人数授業、TTによる指導、ICTの活用等により、よりわかりやすい授業を目指すとともに、生徒の実態を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善を目指す。 ⑤ 各教科との連携を密にして、学年全体で生徒一人一人の成績状況や推移を把握して、基礎基本の定着を図る。 ⑥ 学習意欲の向上を目指して、補講や個人指導を実施するとともに、ICT学習室の活用などにより、自学自習の態度を育成する。
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的・系統的な進路意識の啓発 ・地域を担う人材の育成 ・自分で考え表現する力の養成 	<ol style="list-style-type: none"> ⑦ 進路だより、学年集会や進路講演会等を活用して、計画的・系統的に進路意識の啓発を図るとともに、ICT学習室等の活用により、進路情報にみずからアクセスする能力や意識を身に付ける。 ⑧ インターンシップや地域貢献活動などの体験的活動の実施、地域人材の積極的活用、資格取得の奨励等を通して勤労観や職業観の醸成を育み、地域を担う人材育成を進める。 ⑨ 社会においては場に応じたコミュニケーション能力が重要であることを踏まえ、自己認識を深める機会を積極的に設けるとともに、自分で考え表現する力を培う。
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組む態度の育成 ・特別活動への積極的な参加の奨励 ・豊かな心を育む教育活動の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ⑩ 学校行事や生徒会活動に生徒が主体的に参加・運営し、達成感や自己有用感・達成感を高められるよう支援する。 ⑪ 部活動への加入を奨励し帰属意識を高めるとともに、農業関連高校として各種コンテストや発表会等への積極的教育活動等の推進により、生徒の参加を奨励する。 ⑫ 校内美化の徹底及びボランティア活動を通して自主性と豊かな心を育む。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携した教育活動の活性化 ・積極的な教育活動の情報発信 ・創意・工夫を生かした事業の推進 	<ol style="list-style-type: none"> ⑬ 学校行事、学校説明会、授業公開等を通して、保護者や地域の方々に本校の教育活動を理解してもらい、協働して本校の一層の活性化を図る。 ⑭ 生徒の活躍等を学校ホームページにタイムリーに掲載するなど周知・広報に努める。 ⑮ チャレンジプロジェクト事業である「真壁サンシャイン」プロジェクトを精力的に展開する。

別紙様式1 (高)

・働き方改革の推進

⑩ 校務分掌において、業務の精選やチーム体制の強化、平準化を進めるとともに、全職員の連携により業務の分担と軽減を図る。

⑪ 部活動においては、練習方法を工夫するなどして、効率的な運営に努める。